

日本工学院専門学校		開講年度	2019年度	科目名	美術概論
科目基礎情報					
開設学科	グラフィックデザイン科	コース名	全コース	開設期	後期
対象年次	1年次	科目区分	必修	時間数	30時間
単位数	2単位			授業形態	講義
教科書/教材	参考資料等は、授業中に配布する。				
担当教員情報					
担当教員	角田 知義		実務経験の有無・職種	有・ディレクター	
学習目的					
デザイン概論では「デザイン」と「アート」の違いを語ってきたが、本授業においては、基本的な概念として「美しさ」や「見る事への探求心」「意味をかたちづくる」「造形する技術」等、美術がデザインに影響を与えた部分を深く考察することを目的とする。					
到達目標					
世界四大文明が発祥した時点で美術は存在していた。我々が培って来た文明の中で美術の存在とその役割を知ることから、近代以降変容してきた美術の有り様とデザインへの影響、関わりを考察して行くことを目標とする。					
教育方法等					
授業概要	授業では教員の講義を聴講すると共に、テーマに沿った内容について映像を見て理解を深めていく。毎回授業最終に振り返りシートを記入して理解度合いを確認していく。				
注意点	必要な資料はその都度用意して配布していく。聴講内容に関してしっかりと記録すること。途中で理解度の確認として小テストを実施する。中間と最終にレポートを作成し提出していく。授業時数の4分の3以上出席しない者は課題提出と評価を受けることができない。				
評価方法	種別	割合	備 考		
	試験・レポート	60%	レポート・試験・課題を総合的に評価する		
	ワーク	30%	授業内容の理解度を確認するために実施する		
	平常点	10%	積極的な授業参加度、授業態度によって評価する		
授業計画（1回～15回）					
回	授業内容	各回の到達目標			
1回	デザインから見た美術1	ガイダンス、デザインから見た美術、デザインとアートの関係、観察力			
2回	デザインから見た美術2	西洋美術を学ぶための基礎知識、歴史と文明と価値観、イメージと実像			
3回	20世紀、抽象表現とデザインの時代1	抽象表現の直前、印象派から（世界の近代化と美術の役割）			
4回	20世紀、抽象表現とデザインの時代2	光との絵の関係 印象派、ポスト印象派、ジャポニスム、写真機、写真の存在			
5回	20世紀、抽象表現とデザインの時代3	新しい色との関係 フォービズム			
6回	20世紀、抽象表現とデザインの時代4	対象の捕らえかた キュビズム			
7回	20世紀、抽象表現とデザインの時代5	20世紀、新しい時代の表現 構成主義、未来派、シュールリアリズムほか			
8回	20世紀、抽象表現とデザインの時代6	デザインとの接点 抽象表現とバウハウスと表現実験			
9回	西洋美術史、基礎の基礎1	古代美術から「美」の探求、美のルール作りを理解するには			
10回	西洋美術史、基礎の基礎2	構図と色彩と透視図法（美術を構成する要素と基準）、ルネサンスの時代			
11回	西洋美術史、基礎の基礎3	イコノロジー（絵を読み解く文法）、中世の美術を知る			
12回	日本の美術1	狩野派の華麗さ、殿様のアート、日本の芸道、家元制度			
13回	日本の美術2	葛飾北斎、庶民のメディア・アート、江戸時代の視覚伝達			
14回	日本の美術3	江戸から明治へ、西洋美術との出会いと葛藤			
15回	現代のアート	ポップカルチャーとは何だったのか？アートとテクノロジーの越境			